

(別紙)

同志社大学心理学部教授  
中谷内一也

① 先生のご意見の骨子を箇条書きにしてください (5行以内)。

- ・ 低線量放射線リスクの定量的理解を深めるために、すでに保有している別リスクの認識枠組みの適用を目指す。
- ・ 低線量放射線リスクの定量的理解を深めるには、他のリスクとの比較や一定のモノサシを当てることが有効。だが、そこに説得意図が見えると比較そのものが拒否される。モノサシは平時からの普及が重要。
- ・ 専門家はリスクを「深刻さ×確率」でとらえるが、一方、一般国民のリスク認知には別の心理的要因が強く関与する。
- ・ リスクコミュニケーションでは信頼が鍵を握るが、その信頼を規定する要因として重要なものが価値の共有。

② 先生のご意見の根拠となった文献を10編列挙して下さい (10編以内)。

1. 中谷内一也 2006 リスクのモノサシ, NHK ブックス
2. 中谷内一也 2008 安全。でも、安心できない, ちくま新書
3. 中谷内一也・Cvetkovich, G. (2008). リスク管理機関への信頼: SVS モデルと伝統的信頼モデルの統合 社会心理学研究, 23, 259-268.
4. Nakayachi, K. & Cvetkovich, G. (2010). Public trust in government concerning Tobacco control in Japan. Risk Analysis, 30(1), 143-152.
5. 中谷内一也 (2011). 信頼の SVS モデル(5): 東日本大震災に関連した組織の信頼 日本社会心理学会第 52 回大会発表論文集, 123.
6. Siegrist, M. (2000): The influence of trust and perceptions of risks and benefits on the acceptance of gene technology. Risk Analysis, 20, 195-203.
7. Siegrist, M., Earle, T.C., & Gutscher, H. (2003). Test of a trust and confidence model in an applied context of electromagnetic field (EMF) risks. Risk Analysis, 23, 705-716.
8. Slovic, P. (1987). Perception of risk. Science, 236, 280-285.
9. Slovic, P. (1993). Perceived risk, trust, and democracy. Risk Analysis, 13, 675-682.
10. Small, D. A., Loewenstein, G., & Slovic, P. (2007). Sympathy and callousness: The impact of deliberative thought on donations to identifiable and statistical victims. Organizational Behavior and Human Decision Processes, 102, 143-153.

- ③ 国民、特に福島県民の方々がご理解頂けるように、できるだけ平易な言葉で先生のご意見を400字程度でまとめて下さい。

放射線の悪影響を“程度”として理解するのは、これまで身近な対象ではなかっただけに難しい。しかし、私たちはさまざまなリスクに囲まれ、それに対処しながら日常生活を送っているのだから、他のリスクに例えたり、比較したりしながら放射線のリスクを理解できるはずである。今回の事故で放射線リスクについて考えざるを得なくなったことはきわめて残念だけれども、こうなった以上、自分や家族の周りにあるさまざまなリスクの中に放射線を位置づけ、生活のリスクを全体として下げていきたい。また、今回の事故で放出された放射線の影響については、取るに足らないという意見から非常に深刻というものまで幅が広く、これが混乱をもたらす。人は自分が直感的に見方だと感じる人の意見ばかりを収集しがちだが、そうすると考え方の幅が狭くなってしまふ。ある程度の混乱を覚悟しつつ、多様な意見に耳を傾け自分なりの相場観を形成するのがよいのではないだろうか。